

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第131号 会 報 1990年12月18日

学会会議会員候補・選挙人候補の投票用紙が同封されています!

目 次

I 第88回総会ならびに講演会の報告	1
会長挨拶	2
運営委員報告	2
庶務 WPGM JGG 新入会員	3
JGG編集委員長報告	4
II 第89回総会ならびに講演会のお知らせ	4
固有セッション	4
特別セッション 共通セッション	5
共通セッション内容紹介	6
最寄りのホテル等	7
III 第16期学会役員選挙投票結果	8
IV 日本学会議会員候補者及び会員推薦人の選挙について	8
V 地球電磁気研究連絡委員会報告	9
VI 予稿原稿、固有及び共通セッション申込様式	10~12

I 第88回総会並びに講演会の報告

第88回総会並びに講演会は11月19日(月)から21日(水)の3日間大宮ソニックシティビルで行われた。都市型コンプレックスビルの中の良く整った会場の中で2日目の懇親会も含め大盛会であった。総会の式次第は以下の通り。

1. 開会の辞 (比屋根会員)
2. 総会議長指名 (議長:乙藤運営委員)
3. 大会委員長挨拶 (小嶋大会委員長)
4. 会長挨拶 (行武会長)

5. 運営委員会報告

- | | |
|----------|----------|
| 庶務関係報告 | (浜野運営委員) |
| JGG関係報告 | (福西運営委員) |
| WPGM関係報告 | (本蔵運営委員) |
6. JGG編集委員長報告 (小口編集委員長)
 7. 議事
 - 学会基金の運用について (深尾運営委員)
 - 次期開催地 (浜野運営委員)
 - 次次期開催地
 8. 謝辞 (恩藤評議員)
 9. 閉会の辞

会長挨拶

今年の秋の学会は大変変則的な学会となりました。まず時期が11月下旬という「季節」はずれなら、場所も埼玉県大宮市という「春は東京、秋は地方で」というこれまでの学会開催の原則からはずれた所になりました。それどころか、一時は今年の秋の学会そのものがまったく開かれぬかもしれない、という事態でもありました。

8月に国際地球物理金沢会議が開かれましたが、本学会はこの会議に全力を集中するために、秋の学会はとりやめはどうか、という意見が一時有力でした。いろいろ議論をした末、金沢会議で発表できなかった論文もあるだろうからというので、結局秋の学会を例年通り開くことになりました。しかし8月からある程度の期間をおいて、またおおぜいの人が集まりやすい東京でやるのがよい、ということで、東京大学理学部に学会開催のお世話をお願いしたのです。都内で会場の都合がつかず、何もかも異例の学会となった次第です。しかし、いざ蓋を開けてみると、予想に反して例年と少しも変わらぬ講演申し込みがあり、本学会の活力にあらためて感嘆しました。

ところで、国際地球物理金沢会議は皆様もご承知のように、大変成功のうちに終わりました。本学会の木村幹根会員を委員長とする組織委員会のご活躍によるものですが、本蔵会員、福西会員など本学会の会員が組織委員の有力メンバーとして金沢会議を成功に導かれたことに、大きな誇りを感じると同時に、お骨折りにいただいた方々に感謝したいと思えます。

異例といえば、今年の春の学会も異例でした。地球科学・惑星科学関連の学会の合同大会が開かれたことです。ながい間関係者のあいだで待望されながら、やっとこの春実現をみたものです。このような合同大会を一回かぎりの試みに終わらせないようにしよう、と関連学会に地震学会と共同で呼びかけたところ、さいわい多くの学会の賛同が得られ、来年春は4月2-5日の4日間、八王子市にある共立女子大学教養部で開かれることになりました。地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本地球化学会との共催になる予定です。日本気象学会、日本海洋学会の参加は、残念ながら来年も望めませんが、オゾンに関するシンポジウムを気象学会と共催でひらくことや、海洋学関係者が参加できるセッションをとりいれることなどが企画されています。これらの学会関係者をも含めた研究者間の意見交換の場となるものと期待されます。さらに1992年には、合同大会を京都で開催することで検討が進められています。どうかこのような合同大会が根付いて、毎年定期的に行われるようになり、将来は大き

く学会連合へと発展することを期待するものです。

今年も数多くの国際学会が世界各地で開かれました。さきに述べた国際地球物理金沢会議や、「磁気圏嵐」に関する箱根チャップマン会議などのように、わが国で開催される機会も多くなりました。それだけわが国の国際的貢献度が増したことを裏付けています。金沢会議にたいしては、東南アジアからの参加者の評価が高かったと聞いております。これからは、国際交流に果たすわが国の役割にますます期待が高まるものとおもわれます。

しかし、「国際学会」となると財政的にも特別な準備が必要となります。国際交流は「国際学会」に限ることなく、もっと日常的に行われてよいのではないのでしょうか。例えば、地球科学・惑星科学の合同大会がそのような交流の場を提供できるのではないかと考えます。春の合同大会のときには、永年外国で研究生生活を送ってこられた日本人研究者の一時帰国された姿もありましたし、日本滞在中の外国人研究者が熱心に講演に聞き入っておられる様子もあちこちで見られました。言葉の問題はありますが、合同大会を機会に、近隣諸国の研究者を招待したり、海外からの研究者の来日を企画すれば、大会期間中だけでなく、その前後でさまざまな形で多くの国の研究者間の接触がはかれることになるのではないのでしょうか。合同大会が国内のいろいろな分野の研究者の交流を促進するだけにとどまらず、将来は国際的な交流の場のひとつになったら、どんなにかすばらしいことでしょうか。

最後におめでたいニュースをひとつ報告します。福島直会員がこの12月にAGUからWaldo Smith Medalをお受けになります。このメダルは永年地球物理学界の活動を高めるのに尽くした人に授けられるもので、2年に1人受賞者があるかないか、という大変価値あるものです。福島会員のご功績をたたえ、心からお祝いを申し上げます。

庶務報告

前回の総会以降、運営委員会を2回(7月26日及び11月18日)開催した。通常の学会運営に関する案件に加えて、JGGの分担金、来年春の合同大会、学会基金の運用、WPGM等に関して議論を行った。また、この時期には名簿の作成、本学会の役員選挙、学術会議会員候補者及び推薦人の選挙に関する準備を行った。名簿についてはすでに各会員に配布をした。学会役員選挙は12月10日締切で投票をお願いしており、本会報に結果を掲載している。引継のための運営委員会は1月中旬頃に行う予定。学術会議の学術会議会員及び推薦人の候補者の選挙については、本会報

を参照。来年春の合同大会に関連して、長期的な視野にたつて関連学会間の情報交換を行い、緊密な交流を促進するために、地球惑星科学関連学会連絡会が設置され、本学会の連絡会委員は福西、本蔵、浜野の3人とした。来年春に共立女子大学で行われる合同大会の実行委員は連絡会委員を中心として別途組織される。この合同大会の日程等については本会報のお知らせを参照されたい。特に、今回から講演申し込みの方法等に変更があるので注意されたい。JGGの出版経費の分担金についてはテラバブや編集委員会とも話し合いを行い、本会報のJGG関連の部分で述べられているように当面の方針を決定した。学会基金に関しては毎年賛助会費を組み入れているが、この基金を有効に利用する方法について運営委員会で議論を続けてきたが、今後は数名のワーキンググループを作って、具体的な案を作ることにした。

WPGM報告

AGUと国内8学会1グループ共催のWPGM(国際地球物理学金沢会議)は、予定通り金沢で開かれた。1000名を越す参加者による熱心な討論が猛暑にめげず連日続き、大盛況の内に幕を閉じることができた。本学会は主導的役割を果たし、地球物理関連の発展に大きく寄与した。とくに、組織委員長の木村磐根前会長、実行委員会の佐藤 亨会員、長野 勇会員のご尽力は特筆に値する。

参加者はわが国からの852名のほか、米国161名、カナダ16名、英国10名、中国8名、オーストラリア6名、その他12カ国から24名の合計18カ国1077名に達した。

経費関係では、登録料、各種補助金、各学会分担金等を合わせて28,593,431円の収入があった。これに対し支出は、会場費、人件費、事務経費等を合わせて25,079,218円となった。結局3,514,213円の剰余となった。この剰余金の取扱いについてはWPGM期間中の組織委員会で討議した結果、WPGMを再度わが国で開催する可能性を含めて学会間の交流促進のために使用することとなった。この件に関して、各学会からの代表による連絡会を呼びかけることになる。

JGG報告

1 出版状況について

特集号としては、1991年2月号として“Core-Mantle Interactions”(LAGA Division II.4, edited by I.A. Eltayeb)が予定されている。また67の論文を集めたSupplement Issue“Seventh Quadrennial Symposium on Solar—Terrestrial Physics”(edite

d by K.D. Cole, C.H. Liu, H. Oya)の出版も予定されている。しかし一般投稿論文に関しては依然として投稿数が少ない状態が続いている。会員各位の積極的な論文投稿を期待する。

2 TEXによる論文投稿について

JGGでは、1991年1月よりTEX(テフまたはテックと読む)を使用したフロッピディスクによる論文投稿の受付を開始する。これによって従来と同じ高品質の印刷仕上がりを保ちつつ、正確で敏速な出版が可能となり、JGGの国際誌として価値がさらに高まることが期待できる。

3 JGG出版財政について

論文投稿形式をテフを使用したフロッピディスクに切り替えることにより、従来出版経費の中で最も大きな割合を占めていた組版代を大幅に削減できる見通しとなった。但し、ここ数年は従来通りの形式の論文投稿もかなりの程度含まれると思われるので出版経費全体としてはそれほど大きな削減にはならないと思われる。しかし、従来の構造的な赤字体制は徐々に解消されてゆくと期待されるので、一昨年より問題となっているJGG出版経費への学会負担金(現在75万円)の増額は当面行わないことでテラ学術出版と合意した。

4 JGG論文奨励賞について

JGG編集委員会で今年度のJGG論文奨励賞の候補論文の審査を行っていたが、今年度は残念ながら該当論文がなかった。

新入会員

正会員

近角聡信	(江戸川大学教養部)
Gautaam, Pitambar	(北海道大学理学部)
田原弘一	(大阪大学基礎工学部)
服部克己	(名古屋大学太陽地球環境研究所)
高見友幸	(京都大学超高層)
Sarmoko Saroso	(京都大学理学部)
笠原禎也	(京都大学工学部)
近藤賀代子	(東芝小向工場宇宙開発技術第3部)
稲葉基之	(宇宙開発事業団)
古川功一	(東芝小向工場宇宙開発技術第1部)
田中真	(東海大学工学研究科)
趙 章熙	(大阪市立大学理学研究科)
加藤賢一	(東海大学工学研究科)

海外会員

Richard T. Baldwin (USA)

賛助会員

(株)TRI

編集委員会報告

小口 高

編集委員会から報告すべきことが2点あります。

一つはJGG論文奨励賞です。今年の一月の編集委員会以来、4回の編集委員会にわたって検討を続けてきましたが、大変残念ですが、1959年のJGG投稿論文の中にはJGG論文奨励賞の該当論文なし、と云う結論に達しました。特に若い研究者を対象として、海外でのワークショップなどへの出席旅費、あるいは海外から日本での研究集会に出席するための旅費の補助と云う意味で、奨励賞には30万円の副賞がつくことになっていますので、この特典を大いに活用して頂きたいと思います。

二番目は、JGGへの論文投稿に関する方法です。JGGでは、投稿論文最終稿(レフェリー手続きを終了し、英文校訂を終わった原稿)をTEXのフロッピーディスク(5インチ)によってお送り下さるようお奨めすることにしました。この方法のメリットは、まず、原稿完成から印刷までの時間を著しく短縮できると云う点にあります。従来、完成稿を受け取ってから3カ月を要した印刷が1カ月あるいはそれ以下に短縮できます。これは、論文のプライオリティを確保するのに重要なポイントです。次に、印刷費用の大幅軽減が挙げられます。従来の活版ですと、組版にかなりの費用がかかっていましたが、これが大幅に減りますので、全体の費用が軽減されます。現在の試算では、別刷代金に関して言えば、従来、頁あたり100部3500円であったものを2000円にすることが出来ます。最終稿をTEXフロッピーでお送り下さった著者にこの料金を適用します。

他に、編集委員会で議論が行われているのは、カラーページをもっと安くあげる方法はないか、ということです。カラー表示の要請はこれからますます増えるでしょうし、もし、適当な方法でやすくできればその面でもJGGのセールポイントになり得るのではないかと考えています。年に二冊ほどのカラー特集号を出版することを検討しています。

II第89回総会ならびに講演会のお知らせ

第89回春季大会を東京大学海洋研究所と同地震研究所のお世話で八王子市の共立女子大学キャンパスにおいて開催します。本年度の春の大会(1990年)に引続き「地球電磁気・地球惑星科学関連学会合同大会」となります。合同大会の参加学会は、前回と同様に、地球電磁気・地球惑星科学関連学会、地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本地球化学会の5学会です。

研究発表の申込方法や大会の運営方法が、通常の大会や1990年合同大会とは異なりますので、十分

ご注意ください。

記

1 地球電磁気・地球惑星科学関連学会 1991年合同大会

日時 1991年4月2日(火)～5日(金)

場所 共立女子大学八王子校舎
(東京都八王子市、JR中央線高尾駅から無料スクールバスで約10分)

2 研究発表申込締切日

共通・固有セッションともに
1991年1月28日(月) (厳守のこと)

3 大会参加費

大会参加者には参加費を払っていただきます。
入場初日に、受付で一般1000円、学生500円
を支払い、名札を受け取ってください。

4 セッションの区分

研究発表は、合同大会共通セッションと地球電磁気・地球惑星科学関連学会固有セッションに二大別して行われます。今回は、90年春の「地球中心核」のような合同大会全体のシンポジウムはありません(ただし大会前日の4月1日(月)に東京都区内で、合同大会協賛の「MULTIERシンポジウム」が開催される予定です)。

固有セッションの中の新しい試みとして特別セッションが設けられます。内容については世話人の呼びかけをご覧ください。地球電磁気・地球惑星科学関連学会会員は、共通セッションと地球電磁気・地球惑星科学関連学会固有セッションにおいて、合計2題まで研究発表のスピーカー(口頭発表の演者、ポスター発表の説明者)になることができます。地球電磁気・地球惑星科学関連学会固有セッションのスピーカーは会員に限りません。ただし、各セッションで企画される招待講演には、これらの規定は適用されません。

5 地球電磁気・地球惑星科学関連学会固有セッション

1. 締切日は1月28日(月)必着です。締切日以降に到着した申込は自動的に却下いたします。電話やFAXによる申込や遅延依頼は受け付けません。
2. 11ページの講演申込用紙(今回より様式が変わりました!)へ漏れなく記入してください。共通セッションに申し込む場合はコピーを1枚添付(できれば各々の申込用紙を両面コピーして記入して)ください。
3. 非会員のみによる講演申込は受け付けません。筆頭著者(ファーストオーサー)になれるのは1人1講演に限りません。ほぼ同じ内容の講演を、筆頭著者だけを取り替えて複数の講演として申し込むのはおやめ下さい。

4. 予稿原稿は、10ページの様式（今回より様式が変わりました！）に従ってください。ワープロで同封用紙に直接印刷するのが困難なときは、無理に張り付けたりせずに、規定の枠にあうようにA4用紙に鮮明にコピーなどされても結構です。
5. 予稿本文が日本語の場合は、枠に規定されているように2段組にされると、印刷後読みやすくなります。
6. プログラム編集を迅速に行えるように、予稿原稿のコピーを必ず1部同封してお送り下さい。

固有セッション講演申込・予稿原稿送り先

- ☆地球内部および月・固体惑星関係
〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部地質学鉱物学教室 鳥居雅之 宛
- ☆太陽・惑星間空間および地球・惑星電磁圏関係
〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部地球物理学教室 寺沢敏夫 宛
- ☆地球・惑星大気圏関係
〒442 豊川市穂の町3-13
名古屋大学空電研究所 近藤 豊 宛

7. 口頭発表の時間は15分（講演12分、質疑3分）以内です。
8. 限られた会期を有効に利用するために、ポスターセッションに特に分野を定めずに約50件の発表を予定しておりますので、奮ってお申込下さい。ポスター発表・口頭発表の区分はご希望にできるだけ従いますが、プログラム構成の都合上ご希望の区分以外での発表をお願いすることがありますので、ご協力下さるようお願いいたします。

9. ポスターの掲示板は、縦180cm、横120cmのパネルボードです。画鋏・セロテープなどは会場に用意いたします。
10. 緊急の話題のために、約5件のポスタースペースを確保いたします。発表希望者は3月28日までに関係のプログラム委員に申し込んで下さい。
11. 各セッションの座長を2名とし、講演会の進行を能率的に進めていきたいと思っておりますので、ご協力お願いいたします。

特別セッション

世話人 住友規彦（京都大学防災研究所）
河野芳輝（金沢大学理学部）

最近、地震発生火山噴火等に関連して様々な電磁期現象の観測が報告されている。これらの中には、発生のメカニズム、発生場所の特異性など明かでない問題も多い。問題点の整理も兼ね、地震・火山噴火予知への将来展望を検討する。

6 共通セッション

締切日は1月28日（月）必着です。
内容についてはセッション一覧表を参照してください。

1. 共通セッション研究発表申込先
各共通セッションの世話人
2. 研究発表申込要領
 - 1) 12ページの研究発表申込書に漏れなく記入してください。コピーを1枚添付してください。
 - 2) 予稿原稿は10ページの書式に従ってください。コピーを1部添付してください。

講演発表申込書の大枠内の表記法

プログラムの印刷と、プログラム・予稿集に付ける索引の作成は、研究発表申込書の記載に基づきます。見やすく使いやすいプログラム・索引にするために、以下の表記法に従ってください。

- A. 予稿原稿の題目欄（題目・著者・所属）が英文のみの場合
 1. 発表題目と発表者氏名は英文で書く、題目は、全体の先頭文字のみ大文字とし、他は capitalize しない、氏名は、T.Terada, K.E. Bullen のように書く。
 2. 所属に関しては、日本国内機関は和文略称、海外機関は英文略称を書く、広く流通した略称があればそれを使い、また Univ. のような短縮形を用いる（通総研、Stanford Univ. など）。
- B. 余稿原稿の題目欄が和文・英文併記の場合
題目は和文で記入する。氏名は本人が日常用いる表記のままでよい；余稿原稿の和文題目欄の著者の表記も必ずこれに一致させる。所属の記法は上記に従う。

注) 地球電磁気・地球惑星圏学会は **SGEPSS** と略記されています。

なお、索引は和文と英文に分けられるので、同一人が和文索引と英文索引に別々に掲載される場合がある。

3)研究発表申込書を予稿原稿の上にして、ばらばらにならないように、必ずクリップで留めて提出してください。

申込書や原稿が不備なもの、テーマが不適当なもの、受理されないことがあります。

4)口頭発表の講演時間は討論を含めて15分以内です。短縮される可能性があります。ただし、招待講演はこの限りではありません。

5)ポスターによる研究発表を充実させる予定です。広い会場で、1発表あたり1.8m×1.2mのボードが使えます。提示日数を長くし、ポスター会場以外は休みとなる時間帯を設ける予定です(そのとき説明者には必ずポスターの前にいていただきます)。口頭発表が第1希望でも、ポスター発表にさせていただくことがあります。特別セッションや共通セッションでも、世話人の判断でポスター発表を増やし、そのセッション中に要旨を1〜2分で紹介していただくという形態が考えられます。

共通セッション一覧表

それぞれ、1行目(下線部)が‘セッション番号とセッション名’、2行目が‘主世話人(研究発表申込先)／副世話人’、3行目以降が‘世話人から投稿者への呼びかけ’です。

A01 海面変動、海洋変動および地球ダイナミクス
瀬川爾朗(〒164 東京都中野区南台1-15-1 東京大学海洋研究所)／今脇資郎(鹿児島大水産)

いまや地球研究は、固体の部分と流体の部分とを分けて論じることはできないところまで進んできた。固体圏から水圏、気圏へのエネルギーフラックスが重要であると同時に、太陽エネルギーを含めた水圏、気圏からの固体地球へのエネルギーフィードバックも無視できない。地球のダイナミクスを論じるとき、大気、海洋、固体地球のみつどもえの相互作用を考えなければならない。本セッションはこのような観点から、現在・過去の固体地球の運動(回転、極運動、自由振動、プレート運動など)、大気の循環、海洋のダイナミクス(海流、潮汐、海面変動など)の研究者が一同に会して情報交換をし、今後の研究方針などを検討することを目的とする。測地、地震、海洋、気象の研究者に呼びかけたい。

A02 希土類元素の挙動からみた地球・惑星系
田中 剛(〒305 つくば市東1-1-3 工業技術院地質調査所地殻化学部)／富樫茂子(地調)

日本の研究者が世界に先がけて開拓した“地球科学の道具”、「希土類元素存在度パターン」が生まれて30年になる。ここに、原始太陽系の形成と文化、マントルと地殻におけるマグマの生成と分化、岩石圏と水圏の相互作用、…など、希土類元素を中心とした微量元素の挙動から把握される地球科学

的事象について、観測・実験・理論の三面から議論をすすめたい。

A03 地球・惑星の進化とダイナミクス
本多 了(〒730 広島市中区東千田町1-1-89 広島大学理学部地学科)／加藤 工(東北大理)・佐々木 晶(広島大理)
地球・惑星が形成されてから現在に至るまでの物理的、化学的進化を引き起こした物質移動のダイナミクスを解明することは、地球・惑星の総合的理解に不可欠である。このセッションでは、進化過程における様々な活動の長期的変動に関わる問題、例えばマントル対流、火成活動、惑星外との相互作用、大気・海洋との相互作用等の理論的、実験的研究、および野外調査観測の成果の発表を歓迎する。

A04 地球中心核
大谷栄治(〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学理学部岩石鉱物鉱床学教室)／佐藤忠弘(国立天文台水沢)
地球の中心部の地球核とそれに接する下部マントルの構造とダイナミクスを、地震学、測地学、地球電磁気学的観測や理論などにもとづいた研究、超高压実験や物性理論などにもとづいた物質科学的研究などの成果から、総合的に議論したい。また初期地球における地球核の分離形成過程、核とマントルの平衡の有無、核内部での流体運動などに関する理論的、実験的研究なども大歓迎、そして、時間的・空間的に動的な核・下部マントル観を得ることを目指したい。

A05 マントルの物質・構造・ダイナミクス
中西一郎(〒060 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学部地球物理学教室)／佐藤博樹(岡山大地球研)
マントルの構成と現在のダイナミクスを、地震学・地球電磁気学・物質科学・地球化学等の成果から総合的に議論したい。マントルの地震学的・電磁気学的・化学的不均質性、低速度層の実体、マグマの発生と上昇、スラブの構造、マントル不連続面の起伏、異方性、深発地震、マントル物質の相転移・相平衡と物性、マントルの成層構造・温度構造・レオロジー、ジオイド、同位体比異常など、広範囲な問題を扱いたい。

A06 地殻の構造と物性
伊藤 潔(〒611 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所地震予知研究センター)／古川善紹(東大震研)
地殻の構造は古くから種々の方法で調査研究されてきた。最近では、地震波速度、熱的、電磁氣的、重力および構成岩石・鉱物などの構造が、多くの地域で明らかにされている。また、これらの構造が、室内実験による岩石・鉱物のレオロジーと結びつけられることによって、地殻下部の流動、地震発生など地殻のダイナミクスの解明に発展しつつある。地殻の構造と物性に関する観測成果およびその解釈に関する研究発表を求む。

A07 テクトニクス
玉木賢策(〒164 東京都中野区南台1-15-1 東京大学海洋研究所)／瀬野徹三(東大震研)

地球表層部での地学事象を、もっと深くもっと総合的に理解することをめざしたセッションです。地殻およびリソフ

エア（海陸を問わず）の進化、運動、構造、変形等々や、リソスフェアとアセノスフェアの相互作用をターゲットにした研究が、本セッションの主な対象となるでしょう。ポスター発表は大歓迎です。

A08 伊豆・小笠原弧北端部の地殻活動とその背景
 小山真人（〒422 静岡市大谷836 静岡大学理学部地球科学教室）／山岡耕春（東大震研）

活発な地震・地殻変動・火山活動の場である伊豆・小笠原弧北端部。膨大なデータが集積した現在、地球物理・地球化学・地質・岩石・地形など、あらゆる手法による海陸からのアプローチの成果を結集し、その活動のメカニズムを総合的に探りたい。各分野からの招待レビュー講演や、ポスター発表の積極的利用も予定している。

A09 地殻変動

石井 紘（〒113 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所）／多田（地理院）

地震・火山およびテクトニクスなどに関連した地殻変動現象に関して、観測・解析、理論、数値実験など多様なアプローチにもとづいた議論を進める。地殻変動観測計器の開発研究およびデータ処理・解析方法の研究についても歓迎する。

A10 重力

大久保修平（〒113 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所）／山本明彦（北大理）

重力のもつ意味が大きく変わろうとしている。それは、Hi-Techの波（GPS、超伝導および絶対重力計、人工衛星Altimetry など）と、研究者のたゆまざる努力（精密、水平高分解能測定）とがもたらしたものである。重大な転機を迎えようとしている今日、グローバルな理論・応用からローカルな話題まで、重力理論、重力異常、重力時間変化、重力測定、潮

汐、ジオイドなど重力に関わる諸問題を議論したい。

A11 年代測定による岩体の熱史
 松田高明（〒671-22 姫路市書写2167 姫路工業大学地学研究室）／西村 進・田上高広（京大理）

各種方法、各試料による年代決定法は、岩体の冷却速度に伴ってそれぞれの閉鎖温度が異なり、さらに、とくにフィッション・トラック法では飛跡の長さも変化する。これらの結果をまとめて岩体の詳細な熱史を組み立てることができ、テクトニクス等に適用できる。このセッションでは、各種方法、各試料による閉鎖温度の決定、測定法の詳細および応用面でまとめる。

その他

- 講演会場では、35mmスライドプロジェクター1台とオーバーヘッドプロジェクター1台が使えます。
- 研究発表に関連してビデオを映写したい方は、研究発表申込書の余白にその旨を書いてください（所用時間とビデオの種類も）。また、研究発表と関係なく、ビデオの上映だけを希望する方は、目的・内容・所要時間・ビデオの種類を明記して、1991年1月28日（月）までに学会事務局へお知らせください。ただし、映写装置等は目下検討中ですので、ご要望にそえない場合もあります。
- 共立女子大学八王子校舎の夜間の使用は原則としてできません。大会期間中に各種の研究集会や委員会を計画している方は、会合の名称・規模・必要な設備・希望する日時・責任者の氏名と連絡先を明記して、なるべく12月末までに学会事務局へお知らせください。なお、4月3日（水）の夜に合同大会懇親会が予定されています。

* 最寄りのホテル等

JR八王子駅（高尾駅から6分）周辺のビジネスホテルが中心です。4月初めは混雑が予想されますので、利用希望者は各自早めに手配して下さい。

名 称	所 在 地 (八王子市)	電 話	収 容 人 数	料 金
☆きくやホテル	高尾町1604	61-4416	30	5500
ホテルサンマリーナ	西八王子台町4-44-13	66-5111	79	5000~
三恵シティホテル八王子	寺町60-1	22-3388	82	5500~
B&B八王子	寺町43-2	25-0051	82	6000
マロウドイン八王子	三崎町6-11	23-7111	182	5700~
セントラルホテル八王子	上野町4	25-1311	64	5900~
八王子プラザホテル	明神町4-6-12	46-0111	253	8497~
ビジネスホテルヤジマ	明神町2-25-4	42-9111	66	4000
ホテルニューグランド	八王子大和田町6-1-6	45-0015	90	6798

注： 表示料金はシングル素泊まりで、2人部屋の場合多少安くなります。

☆以外は税込み料金です。

V 第16期学会役員選挙投票結果

平成2年12月に行われた選挙の結果、第16期役員は次の方々に決りました。

会長 西田篤弘 (宇宙研) 39票
(次点 大屋 寛 (東北大理) 34票)

評議員 (10名)
恩堂忠典 (通総研) 94票
木村磐根 (京大工) 78票
小嶋 稔 (東大理) 65票
加藤 進 (京大超高層) 64票
大屋 寛 (東北大理) 63票
平沢威男 (極地研) 62票
安川克巳 (神大理) 45票
広岡公夫 (富山大理) 43票
河野 長 (東工大理) 43票
行武 毅 (東大震研) 前会長

(次点)
小口 高 (名大STE研) 37票
森 覚 (信大理) 37票
(投票総数 142通、有効票 1278票)

運営委員 (14名)

浜野洋三 (東大理) 115票
鳥居雅之 (京大理) 107票
小川忠彦 (通総研) 103票
町田 忍 (宇宙研) 99票
前沢 洸 (名大理) 88票
長野 勇 (金大工) 86票
本蔵義守 (東工大理) 68票
福西 浩 (東北大理) 63票
寺沢敏夫 (京大理) 48票
乙藤洋一郎 (神大理) 45票
佐藤夏雄 (極地研) 43票
深尾昌一郎 (京大超高層) 41票
林 幹治 (東大理) 38票
西谷忠師 (秋田大鉱) 37票

(次点)
丸橋克英 (通総研) 30票
(投票総数 142通、有効票 1988票)

VI 日本学術会議会員候補者及び会員推薦人の選挙について

第15期日本学術会議会員の選挙に際して、本学会は、地球物理学研究連絡委員会(第4部所属)を指定する学術研究団体として登録されています。本学会は会員候補者1名及び会員推薦人1名と予備者1名を指名できます。会員推薦人は各登録団体から選出されるもので、会員候補者の中から日本学術会議会員(地球物理学からは2名)を決めるという重要な役を持ちます。また予備者は推薦人が事故などで欠けたことにより推薦の決定ができなくなる場合、新しく推薦人に充てられます。

第76回総会で承認された方式(本学会内規第7条—名簿巻末の学会規約参照)にしたがって、第15期日本学術会議会員候補者及び会員推薦人とその予備者を指名するために選挙を行います。運営委員会と評議委員会の議により、下記の本学会正会員の方々を候補者(被選挙人)として決めましたので、必ずこの中から選び投票して下さい。尚同一人が会員と推薦人の両方に候補者にな

っている方の場合、投票は会員および推薦人候補者として重複して記入して頂いても差し支えありません。推薦人選挙における第2位の得票者を予備者といたします。

投票要領 同封の投票用紙に日本学術会議会員候補者・及び会員推薦人各1名を

会員候補者は 黄色の投票用紙に
推薦人候補者は 青色の投票用紙に

記入し、同封の小封筒に入れ、返信用封筒(切手貼付をお忘れなく)を用いて、

郵便による投票を行って下さい。

郵送先 〒113 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル

(財)日本学会事務センター内
地球電磁気・地球惑星圏学会 宛

投票〆切 1991年1月14日(月)受取分まで。

記

候補者(被選挙人)氏名(五十音順)

第15期学術会議会員候補者

小口 高、 加藤 進、 行武 毅

第15期学術会議会員推薦人候補者

大屋 寛、 小嶋 稔、 西田篤弘

VI 地球電磁気学研究連絡委員会報告

将来計画：日本学術会議地球電磁気学研究連絡委員会では太陽地球科学および固体地球電磁気学の将来計画を策定するための作業を進めている。太陽地球系科学については西田篤弘委員が、固体地球物理学については河野長委員が世話人としてそれぞれ作業委員会をつくり検討をおこなっている。作業委員会のなかに数名の委員からなるA班およびB班をおき、A班では「どのような課題を究明すべきか」を検討し、その結果をもとにB班で「研究方法と体制はいかにあるべきか」をまとめる。太陽地球系科学についてはA班をさらに二つにわけ、A-1班「宇宙空間プラズマ物理」、A-2班「超高層大気物理」とし、つぎの各氏が主査として各班の計画とりまとめにあたる。

太陽地球系科学

A-1：前沢 冽 (名大理)

A-2：深尾昌一郎 (京大超高層)

B：福西 浩 (東北大理)

固体地球電磁気学

A：浜野洋三 (東大理)

B：住友則彦 (京大防災研)

現在A班でとりまとめの段階にはいっており、まもなくB班に作業が引き継がれる。研究連絡委員会では、A班およびB班の原案をもとに、来年3月に中間報告を検討し、6月までに最終報告を作成する予定である。(ご意見のある方は、関係の世話人または主査にご連絡ください)

国際標準地球磁場の commercialization: 昨年の IAGA 学術総会で英国地質調査所より国際標準地球磁場 (IGRF) の情報を有料で民間会社に提供したいという提案があった。開発途上国で地磁気観測所の維持がきわめて困難な状況になっており、その資金にあてるのが目的である。来年ウイーンでの IAGA 総会で、この提案は「行政的問題」としてわが国代表も公式に投票しなければならぬ事態が予想される。

委員会で議論した結果、この提案にはいくつかの問題があるということになった。ひとつには、学問の成果を有料化するのが適当かどうか、ということであり、第2には、本来自由であるべき学術情報の交換が制約を受けて、将来自由な研究を妨げる恐れはないか。具体的な問題としては、IGRFの利用者が研究者であるか企業であるかを実際上区別できるかどうか、ということもある。あるいは、いろいろな国で国費をつかって得られたデータをもとにできたIGRFのようなものを、ある国の特定機関が民間企業に有料で提供してよいかどうか、ということがある。逆にいえば、IGRFが有料化されるのであれば、今後データを提供できなくなるところが出るのではないか、という問題。さらには英国地質調査所のような特定機関が資金を管理するというのも不適當ではないか、ということなど数々の問題点がある。これらを考慮して、委員会ではこの提案にはいまのままでは反対の意向を固めている。

<<会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿、お待しています。>>

会長、総務、庶務までご連絡下さい。

会長 行武 毅 東京都文京区弥生1-1-2 東京大学地震研究所

電話 03-812-2111 (内) 5735 FAX 816-1159

総務 浜野洋三 東京都文京区弥生2-11-16 東京大学理学部地球物理教室

電話 03-812-2111(内)4293 FAX 818-3247

電子メール hamano@gpnws.s.u-tokyo.ac.jp

庶務 林 幹治 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地球物理研施設

電話 03-815-8020 Fax 818-0745

電子メール d32758@tansei.cc.u-tokyo.ac.jp

hayashi@grl.s.u-tokyo.ac.jp

地球電磁気・地球惑星圏学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

(財)日本学会事務センター内

電話 (03)817-5801

FAX (03)817-5800

予稿原稿の書式 (SGEPSS固有セッションと合同大会共通セッションに共用)

A 4判の紙 (注意!)	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 100%;"> 12 mm 35 mm 25 mm 10 mm </div>	15 mm
25 mm 25 mm	<p>題目 (和文) 著者・所属</p> <p>連名の場合は、スピーカーの左肩に丸印を付ける。グループで申し込む場合も、スピーカーを明示する。</p>
<p>題目 (英文) 著者・所属</p>	<p>この部分は、発表番号を貼ります。 絶対に何も書かないでください。</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">英文アブストラクト (本文が英語の場合は不用)</p>
<p style="text-align: center;">本 文</p> <p style="text-align: center;">(和文または英文。ただし、 英文の場合は2段に分けない)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> 共通セッションに申し込む場合は、コピーを1枚添付する </div>	<p style="text-align: center;">注 意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ここに書いてある枠は、範囲を示すもので、実際は不要です。 2. 原稿は約 80 % に縮小されて、B 5判の予稿集になります。文字が小さくなりすぎないようにご注意ください。 3. ワープロの印字が薄すぎないように、印字むらのないよう、ご注意ください。手書きの方は、黒インクを使ってください。鉛筆やボールペンはきれいに印刷されません。 4. 鮮明であれば、B 4判に書いたものを、この規格に縮小コピーして提出してもかまいません。ただし、図・写真は原版を貼ってください。 5. このページを 141 % に拡大コピーすると、ほぼ原稿の原寸になります。枠としてご利用ください。
→	← 8 mm
15 mm	

SGEPSS固有セッション 講演申し込み書

1.発表分野（対応するセッション番号に○をしてください）

- A 地球内部：1.主磁場 2.電気伝導度 3.地殻活動電磁気学(Fを参照)
4.磁気異常 5.岩石磁気・古地磁気 6.その他（ ）
- B 固体惑星：1.太陽系 2.月・隕石 3.比較惑星 4.その他（ ）
- C 太陽・惑星間空間：1.太陽・太陽大気 2.太陽磁気圏構造 3.惑星間
空間擾乱 4.宇宙線 5.太陽風・磁気圏相互作用
6.その他（ ）
- D 地球・惑星電磁圏：1.磁気圏構造 2.電離圏構造 3.磁気圏電離圏結
合 4.オーロラダイナミクス 5.磁気圏プラズマ波動 6.ULF
波動 7.惑星電磁圏 8.その他（ ）
- E 地球・惑星大気圏：1.大気圏力学 2.大気圏化学 3.大気圏放射
4.惑星大気 5.その他（ ）
- F その他：『地殻活動に関連した電磁気現象』（世話人：住友則彦[京
大防災研]、河野芳輝[金沢大理]）を今回は設けます。

2.発表形式の希望 1口頭 2ポスター 3.どちらでも可

3.発表順位の希望 以下の講演の（前/後）に並べて下さい。

（名前： ）

（題名： ）

4.注意事項

- 1.しめきり日を厳守してください。電話、Faxなどによる申し込みや遅延
依頼は受け付けられません。
- 2.ファーストオーサーになれるのは、A～Eについては1人1回に限ります。
非会員のみによる講演申し込みはできません。
- 3.口頭発表を希望されても、ポスター発表をお願いすることがあります。
- 4.予稿集の原稿は、次ページの書式を参考にして、各自A4用紙で作成し
てください（従来の用紙は使えません）。
- 5.講演に関する希望などは以下に記入してください。

研究発表申込書

地球惑星科学関連学会 1991 年合同大会

この申込書（共通セッションはコピーを1枚添付）を予稿原稿の上にして、必ずクリップでとめて提出してください

講演時刻 (記入不要)		発表番号 (記入不要)	~~~~~
発表 題 目			
60字 (英文は 120字) を超えた分はプログラムに印刷されません			
発表者氏名・ふりがな・所属	記入例： 田中久・田中久 (建築研) 中田次郎 (防災科研) 中田次郎 (茨城大理) 連名の場合はスピーカーの左肩に丸印を付ける。グループの場合もスピーカーを明示する。		
	索引作成に不可欠ですので、必ずふりがなを振ってください (例にならって姓と名を区分する)		

希望セッション区分 (○で囲む)	共通 固有	希望セッション番号	
希望発表方法 (○で囲む)	第1希望： 口頭発表 ポスター発表		
	第2希望： 口頭発表 ポスター 第1希望が通らなければ取り消す		
希望講演時間 (討論を含み 15分以内)	分	割当時間 (記入不要)	分
スピーカーの主な所属学会 (○で囲む)	地震 SGPSS 火山 測地 地球化学		
申込責任者 (大会まで連絡のとれる人, なるべくスピーカー)		氏名	
連絡先			
電話番号 (内線)		FAX	

プログラム編成の都合によっては、セッション、発表方法、講演時間をご希望にそえない場合があります。あらかじめご了承ください。